

ななかまど

令和4年10月1日(土)
第51号
一般社団法人
猿 払
ななかまどの会
会 報

これじゃ生活がますます大変に

戦争で食料やエネルギーが高騰

円安で輸入穀物も値上がり、牛の餌も

コロナの影響で経済活動が滞り、国民の購買力が低下しました。外食産業や宿泊業界も売上が大きく減りました。業種をテリバリーに変え窮地を乗り越えた企業もありますが、倒産や廃業に追い込まれた企業もたくさんあります。経済が疲弊している中で追い打ちをかけたのがロシアの「ウクライナ侵略」でした。EUを始め西側諸国は直接手が出せないで経済制裁という対抗手段をとりました。

ロシアのウクライナ侵攻から七ヶ月が経ちました。世界の食糧基地ウクライナの小麦、ロシアの天然ガスが流通しなくなり、品薄のために軒並み価格が高騰しています。日本では十月からはさらに8500品目の値上げが予定されています。

世界でエネルギー資源の争奪戦が始まりました。地球温暖化の影響で石炭や石油を使う火力発電から「自然再生可能エネルギー」に変換しようとする動きが加速しています。二酸化炭素を出さない原子力発電は、安全性が確保できないというところで多くの発電所が停止中です。期限を切った原子力発電所を稼働させることも考えられますが、放射性廃棄物の処理や廃炉技術が確立していないのが福島

しかし、ロシアは天然液化ガスの世界第2位の生産国で、ドイツを含めEU各国に輸出していました。ロシアは「経済制裁」の対抗手段としてこの液化ガスのEUへの輸出量を減らし、その分を中国に回しました。日本企業が49%の出資をしていた「サハリン2」も別会社して日本企業を追い出そうとしています。(日本企業は別会社の株を取得して何とか「サハリン2」を手放さないようにしています。)

0月から8500品目以上の値上げが始まります。年間所得で比べると究極の格差社会の猿払村では、年金生活者や子育て世帯、障がい者基礎年金受給者、生活保護世帯の暮らしが年末に向かって益々苦しくなっています。

政府は生活困窮者に一律5万円の給付金を支給しようとしています。この不景気では「焼け石に水」ではないでしょうか。

原発の事故が原子力行政の不信感をつのらせ、反対の声が多数です。

日常生活ではガソリン代や灯油代、電気料金が軒並み値上げされ、低所得者層に打撃を与えています。

カロリーベースで40%しかない食料自給率の日本は食料の多くを輸入に頼っています。22年続いている日銀の「0金利政策」によって円安が進み、食料ばかりでなく輸入品全てがどんどん高くなっています。

そのあおりを受けて、1



最低賃金31円アップ、920円に。



来年は開村100周年。思い出に残る年にしたいですね。

北海道の最低賃金は時間額920円となります。10月2日よりスタートです。これまでは889円でしたから31円のアップです。
しかし、バブル崩壊から始まった景気後退でここ三十年、労働者の賃金はほとんど上昇してきませんでした。正規社員はどんどん少なくなり、非正規雇用の派遣社員がどんどん増えました。当然賃金は低く抑えられています。(労働者派遣法改正の

影響)それと、収益を内部留保に回し賃金を抑える企業経営の在り方も賃金が抑えられてきた要因です。(2017年度の内部留保は507兆4454億円)
政府は「アベノミクスは、日本は好景気で雇用も増えて成功した」と宣伝していましたが、その元になった統計が厚労省が安倍首相に忖度し都合よく集計し国民をごまかしていました。
参議院選が終わわり、やっと「賃金を上げる」ムードになってきました。景気がよくなってきたが、賃上げもないし生産も増えないし、購買力も上がりません。
ここにきて、コロナの規制が少しずつ緩和され外国人旅行者が増えてきました。円安ですからお土産をたくさん買って行くそうです。希望の光が薄っすらとさしてきました。
地域活性化、好景気、賃金の上昇、充実した後の生活は夢物語になるのでしょうか。



私の生きがい:

鬼志別南町に出没する鹿、鹿、鹿。家庭菜園や花壇を作っている高齢者から、「せっかく育ててきたのにがっかり。ネットで困いをしてもやられた」と。駆除はどこまで進んでいるのでしょうか。感覚としては増えているようです。ジビエなどで鹿利用できないでしょうか

障がい者を生み出す

戦争反対

ななかまどの会は障がい者の社会参加を応援している公益法人です